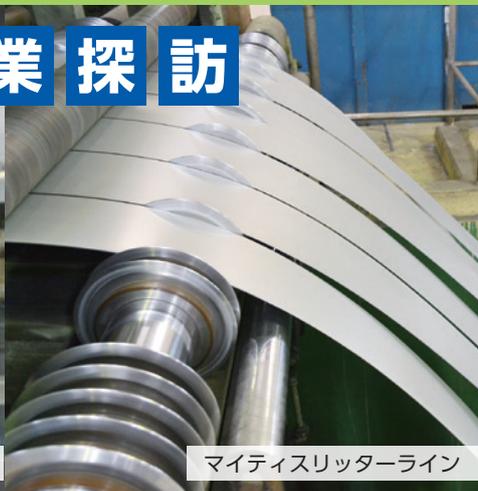




奥澤代表取締役社長



マイティスリッターライン



本体外観

奥澤産業株式会社 小山表面処理鋼板センター

代表取締役社長 おくざわ 奥澤 くにお 國男 氏

■企業概要

本 社：栃木県小山市大字萱橋1210-1
創 業：昭和43年12月
資 本 金：2,800万円
従 業 員：70名
事業内容：表面処理鋼板の切断及び加工、販売

今月号の「企業探訪」は、栃木県小山市に本社を置く、奥澤産業株式会社の代表取締役社長 奥澤國男氏にお話を伺いました。

同社は、表面処理鋼板の加工を専業とする会社として、昭和43年に創業しました。表面処理鋼板は、時代とともに高度化・多様化し、需要はますます高まっています。

また同社は、優れた技術と実績で表面処理鋼板加工業においてトップを競っており、業界をけん引する存在となっています。

奥澤氏のインタビューを通して、「“地域社会において存在意義のある企業”づくりを追求すること」—これが同社の使命であることが分かりました。

日々、事業拡大に向けて果敢に挑戦する同社の取組について取材しました。

(インタビュー日：平成27年6月9日)

[聞き手：筑波総研(株) 専務取締役 藤咲耕一]

鋼団地内に表面処理鋼板加工センターを建設する等、業界他社にさきがけた取組を行ってきました。

昭和43年、私が25歳の時に、兄の会社とは別法人として、表面処理鋼板加工を専業とする「株式会社奥澤シャーリング」を小山市内に創業しました。

その後、昭和48年に、現在の当社が建つ小山市第二工業団地に進出しました。そして、兄の会社が創業50周年を迎えた昭和56年に、当社の社名を「奥澤産業株式会社」と改称しました。

地域のため役立つことは何か

現在、表面処理鋼板は以前より高度化し、多様なものに应用できるようになりました。それに応じ、現代社会においても需要はますます高くなっています。

私は、創業から現在まで「表面処理鋼板加工センターとして、地域のお客様のお役に立つためには、どのように事業を進めるべきか」と自問しながら、また、時代の流れを読み解きながら、社員とともに積極的に事業を展開してきました。

会社を創立するに至った経緯をお聞かせください。

表面処理鋼板加工のパイオニア

当社の前身は、私の父である奥澤藤蔵が、昭和7年に東京都荒川区三河島に創業した「奥澤切断工場（現 奥澤産業(株)浦安）」です。この会社を兄が引き継ぎ、昭和36年から当時珍しかった「表面処理鋼板」の取り扱いを開始しました。

表面処理鋼板とは、耐食・耐久・強化・外観美化等を目的に、表面にめっきや被膜処理をした鋼板をいいます。昭和45年には、千葉県内の浦安鉄

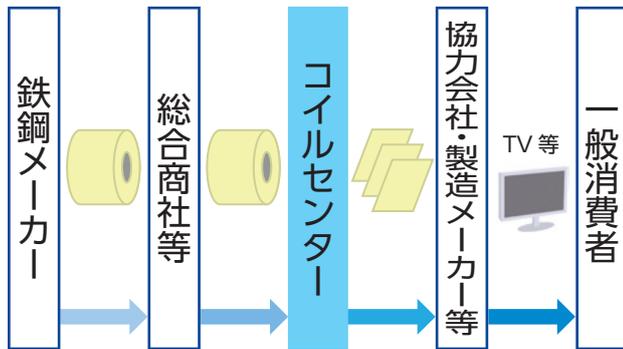


工場内の様子

事業概要についてお聞かせください。

コイルセンター業界をけん引する存在

当社の業態は、コイルセンターと呼ばれています。コイルセンターは、一般的に鉄鋼メーカーと製造メーカー等の間に位置し、加工・品質管理・在庫・販売・流通等の機能を担っており、鉄鋼流通業界の中で欠かすことのできない存在です。



コイルセンターの位置付け

当社では、主に鉄鋼メーカーで製造されたコイル（鋼帯）を商社等から仕入れ、そのコイルを特殊な機械に通して加工しています。

加工の方法は、簡単に説明すると、コイルを特殊なハサミで「縦」または「横」に切り込みを入れるようなイメージです。当社では、様々なタイプの加工設備を導入し、お客様の要望に合わせて、長さや幅を調整した鋼板を製造し、販売しています。

当社は、創業当初から、表面処理鋼板の持つ可能性を信じていました。また、時代のニーズに機敏に対応し、お客様の要望に寄り添うことで、着実に取扱高を伸ばすことに成功しました。

現在では、浦安と合わせた奥澤グループ全体で、月に約2万トンの表面処理鋼板を加工しています。また、優れた技術と実績で、業界のトップを競うコイルセンターとして注目をいただいています。

世界トップレベルの技術をお客様のために

日本のコイルセンターが持つ加工技術は、世界の中でもトップクラスといわれています。当社も日本のものづくりの基礎を支える重要な役割を担っていると自負しています。

当社が加工した表面処理鋼板は、最終的にシャッター、ユニットバス等の建築資材やテレビ、冷蔵ショーケース等の電化製品等の鉄鋼を使った製品に生まれ変わります。

生活を豊かにするためのものづくりの一端を担っていると感ずること、そしてお客様の笑顔が、私たちの何よりの喜びとなっています。

高い加工技術を保つために行っている戦略等についてお聞かせください。

最新鋭の加工設備を導入

当社が扱う鋼板は、亜鉛めっき加工されています。この鋼板は、非常に高性能であり、需要はますます伸びています。「いかに高品質な状態で加工し、お客様の要望に合う鋼板を販売することができるか」—そこに、当社の力量が問われています。

加工設備の種類は、コイルを巻き戻して平坦な鋼板にする「レベラー」、鋼板を縦に切り、幅の細い鋼板にする「スリッター」、鋼板を横に切り、様々な大きさに切断する「シャーリング」等に分けることができます。



コイルを平坦にするヘビーレベラーライン

当社では、「パワーレベラーシャーライン」、「スターレベラーシャーライン」、「マイティースリッターライン」、「シャーリングライン」等、当社オリジナルの設備も含めて、6つの設備が稼働しています。

平成26年12月には、レベラーラインの1つを更新しました。それにより、コイルの平坦度強制能力とシャーの切断力を増強し、最大厚板を現在の4.5mmから6.0mmに拡大することが出来ました。

職人の熟練した技が光る

私が若い頃、新しくお取引をいただいた旧三洋電機様（現パナソニック様）の冷蔵庫用の鋼板の加工で、納品した鋼板が何度も何度も返品されることがありました。

当時は、建材のお客様向けの加工が中心で、不慣れな電気製品の要求品質の高さに大変苦労しました。



加工された表面処理鋼板



ヘビーレベラーラインのオペレーター（写真中央）

試行錯誤の結果、会社一丸となってこの難題を乗り越えた事で、会社として大きな自信がついて、技術者のレベルも大きく向上し、これが現在の当社の技術の礎となっています。そして、大変デリケートな表面処理鋼板を加工するのは、機械設備を動かす職人の熟練した“技”であることを再認識しました。

それを受け、当社では、より高精度な事業を遂行するために、機械設備の更新だけでなく、全社員に対して安全教育や環境教育、さらに若い世代に対する技術教育を積極的に行っています。

現在、当社には、高度な技術を備えた45名の技能者が在籍し、各々が与えられた仕事に邁進する日々を送っています。

技術者の1人は、「自分の手掛けた鋼板が製品化され、店頭に並んでいる姿を見ると感動する」と話す等、当社の社員たちは自分の仕事に自信と誇りを持って作業しています。

御社が事業を展開していく上で大切にされている視点等についてお聞かせください。

存在意義のある企業になるために

私は、当社が常にお客様に喜んでいただける会社であり続けるため、以下のような経営理念を掲げました。

地域において存在意義のある企業でありたい

- ・お客様からの信頼に応えられる企業
- ・全ての社員が生き甲斐を感じられる企業
- ・未来に向けて堅実に歩む健全経営の企業

私は社長として、全社員がこの経営理念を胸に、お客様への奉仕、社業の発展、人格形成に努められるような就業環境を整備していきます。

また、表面処理鋼板の専門加工のパイオニアと

して、社員と知恵を出し合いながら、地域のお客様の要望に幅広く応えられるよう、常に生産体制を最適な状態に保っておくことも社長である私の役割であると考えています。

“ご縁の和”を広げる

当社の営業部には、11名が在籍しています。各営業マンは、表面処理鋼板の豊富な品揃えを武器に、お客様にご満足いただける製品をお届けする窓口です。

当社は、創業時より地域のお客様とのコミュニケーションを常に大切しながら、素晴らしいご縁をたくさんいただいて来ました。

そこで当社は、この“ご縁の和”を広げるために、当社のお客様同士を積極的に繋げるようにしています。この取組は、当社の存在意義を高めるとともに、地域貢献にも繋がると考えています。

品質向上のための工夫

当社では、品質向上と安全性追求のために様々な取組を行っています。

例えば、コイルを移動するためのクレーンは、当業界では珍しいマグネット式を採用しています。このクレーンは約20tまで吊ることが可能です。

マグネット式は、フック式と比べて、コイルの内径へのダメージを回避することができます。

また、フックを使用しないため、フックを入れる幅の分だけコイルの保管場の省スペース化や作業時間の短縮化に繋がっています。

さらに、回転装置を設置することで作業効率と安全性の向上にも役立っています。

なお、工場内で事故が起きないように、クレーンの定期的な点検を徹底しています。



マグネット式クレーン

御社における環境に配慮した取組等についてお聞かせください。

世界のニーズに合わせた環境保全の取組

当社では、経営方針に基づき、品質方針並びに

環境方針を定めています。私は、この方針を達成するためには、全社員が地球環境保全の重要性を自覚し、環境マネジメントシステムの理解を深め、常に環境に対する意識の向上に努めることが重要だと考えています。

そこで平成11年に、品質システムの国際規格であるISO9002(平成14年にISO9001に移行)を取得しました。この規格は、お客様からの要望も受け、早い段階から取得しています。また、平成22年に、環境マネジメントの国際規格であるISO14001を取得しました。

世界のニーズである環境に配慮した国際規格を取得することで、さらに当社の企業価値を上げていきたいと考えています。

梱包材の独自開発で環境負荷を低減

当社では、様々な活動を通して環境負荷の低減を図ってきました。その1つに、鋼板を発送する梱包材の開発があります。

当社の梱包材は、スチールと材木を組み合わせることで鋼板を固定する仕組になっています。接合部分は釘ではなくボルトを使用しているため、従来より木材のひび割れや破損が大幅に改善され、修理等の必要性が軽減しました。

また、この梱包材は、鋼板を出荷した後、お客様から回収し、再利用しています。

御社の事業を一緒に進めてきた社員の方々に対する想いや社内活動等についてお聞かせください。

“じっくり”社員と向き合う

私は、年に1度、丸3日間を使って全社員と約20分の個人面談を行っています。この面談は、社員一人ひとりと向き合い、仕事のことや家族の話等を聞くことで、お互いの理解を深め合う機会としています。

また、年末年始には全社員にレポート提出を課しています。内容は、自己啓発等に関するものです。休み明けは、身体が慣れず事故が起きやすい状況に陥る場合があります。そのためこのレポートは、長



社内の様子

い休みでリフレッシュした身体を“仕事モード”にする効果もあります。

私は、社員に対して常に問題意識を持って仕事に取り組んでほしいと願っています。そこで、社内の問題・課題に対して改善案を募っています。また改善に向けて取り組むための会議を月に1度開催しています。

このように、社員と“じっくり”向き合うことは、社内の問題・課題を解決するだけでなく、情報共有や社員同士のコミュニケーションの円滑化、通常業務の円滑化、さらには、会社全体の活性化や事業発展に大きく貢献すると考えています。

最後に、表面処理鋼板加工のパイオニアである御社の今後の展望等についてお聞かせください。

地域とともに「明日を拓く」

私は、「地域社会において存在意義のある企業」、また、“お客様のお役に立てる企業”づくりを追求すること——これこそ今年で創業47年目を迎える当社の使命であると確信しています。

私は、基本を守りつつ、先を見据える目とバランス感覚を大切にしながら、時代の変化に寄り添える芯の通った“人情派コイルセンター”であり続けたいと考えています。

そのためには、製造・営業部門が一体となって、お客様や地域の企業と共存共栄していくことが大切であると考えています。

これからも、長年伝承されてきた技術と新しい発想を大切にしながら、社員そして地域の方々と一緒に、明るい未来を切り拓いて参ります。



奥澤代表取締役社長(写真中央)、奥澤専務取締役(写真右)と聞き手・藤咲耕一

この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただきまして、誠にありがとうございました。貴社の今後益々のご発展をご祈念いたします。